

後輩たちへ

東京大学 理科一類合格（岡大附属中学校、西小学校出身）

受験とは何か。喩えると、走り幅跳びです。踏み切りが試験日、空中動作が試験中、助走が受験勉強に相当します。受験において、特に重視すべきは、助走です。なぜなら、いくら跳躍が上手くても、助走が上手いかなければ、跳躍は失敗するからです。適切な助走は、十人十色ですから、色々と試行錯誤してみましょう。ところが、受験生皆に共通することは、踏み切りラインに至るまでの時間は、有限だということです。模試や実力考査を通して、跳躍に備えた訓練をしながら、限られた時間の中で、実力を十分に向上させていくという受験の全体像を把握してください。

問題解決は、ある意味、勝負です。勝つかかもしれないし、負けるかもしれない。挑んでみないとわかりません。知恵を振り絞っても負けた、つまり、問題を解決出来なかった場合に、その失敗をずっと根に持つことは、愚の骨頂です。過去を変えることは、不可能ですから。反省することは、反省する。学び取るべきことは、吸収する。そして、次の機会に備えることが、重要です。授業中に問題演習をする意味は、助走中の瞬間のためだけではなく、将来の跳躍を見据えているということです。本番に挑む自分の姿を想像して、前向きに取り組んでみましょう。

受験において、問題の解決方法をフローチャートに整理することは、効果的です。出題範囲が、限定されているからです。しかし、受験会場で、パターン化にそぐわないような問題に直面したら、どうしますか。想定外だ、エラーだとか言って、捨ててしまいますか。否、少しでも得点するために、捨てるわけにはいきません。ここでは、パターンの意味を考える必要があります。一つ一つの問題をパターンとして暗記したとしても、全く同じ問題は本番に出ないはずですから、問題が問う分野、考え方など、適応範囲が広い事項をパターンとして蓄積することが、本番には役立ちます。

一方で、パターン絶対主義には注意してください。突然ですが、 $1+1=2$ 、 $1+5=6$ です。しかし、小学生時代に、 $1+1=田$ 、 $1+5=苺$ が、流行りませんでしたか。これらは、こじつけっぽいですが、別の解釈として、ある意味で正しいです。つまり、状況を判断する際に、あだからこうするという短絡的思考に陥ると、別の方法に目を向けられなくなります。ところが、問題解決の際に、あだからこうはならないという例外は多々あります。勉強すればするほど、パターンを頼りにするあまり、思考の型が固定化される、そんな石頭になるべきではないです。なぜなら、初見の問題状況を拒絶する癖がついてしまうかもしれないからです。パターンに頼り過ぎずに、ああかな、こうかなと言いながら、積極的に試してみることで、真の本番力が身に付きます。

僕は、幼い頃、明太子を嫌いだと思い込んでいました。でも、実際に食べてみると、美味しいかもと思い直し、今では普通に食べられます。ああ、もっと早くから食べておけば良かった。いい点数が出ないから、ある教科のことを嫌いだと思い込み、勉強せず、益々いい点数が出ない。その結果を見て、やはり、その教科のことを嫌いだと確信する。この予言の実現化に陥らないための対策は、思い込みに流されずに、実際に試行することです。人の嗜好は、様々な影響により変化します。成績向上の足を引っ張る教科は、苦手「だと思い込んでいる」教科ではありませんか。実際に苦手だとしても、出来ることを見つけて、試してみましょう。挑戦してみると、意外と美味しいかも、という新たな感覚を抱けるかもしれません。その結果、取り組む姿勢に変化が生じ、成績は安定するはずです。

具体的に何をすべきかと考えるかもしれませんが、そのように考えること自体、頭の使い過ぎだと思えます。あれこれ考える前に、やってみましょう。

受験で最も大切なのは、出来ないことを出来るようにすることです。公式やパターンをぶんぶん振り回すだけでは、手強い問題に、一本取られるかもしれませんよ。石頭にならぬように、色々と試してみてください。実力を発揮するなんて気張ると、緊張します。朝日高校で練習しておけば、無意識のうちに実力なんて発揮されます。

折角人生の貴重な時間をかけて勉強するのですから、何か楽しめることを見つけてください。そして、朝日高校の伝統を継承しながら、最後の踏み切りラインまで、おおらかに頑張ってください。はばたけ、愛しの後輩たちよ！